

# 特集 久留米 くるめ フォーラム2023

## 女性週間記念事業 9月30日▶10月8日

晴れやかな秋空が広がった9月30日、地域会場の市民企画をもって久留米女性週間記念事業「くるめフォーラム2023」が始まりました。男女共同参画社会を目指して、市と市民が協働で開催する「くるめフォーラム」。今年も多くの方が来場されました。本誌ではその思い、その熱気をお届けします。

## 記念講演

10月8日 視聴覚ホール  
210・211研修室  
301・302学習室  
※モニター視聴

講師  
望月 衣塑子  
さん

東京新聞 社会部記者



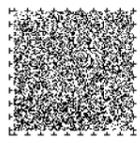
演題「女性の活躍と民主主義」  
～未来の子どもたちのために何をすべきか～

「私達は決して無力ではないです。一人の声では微力でも、連帯して声を上げ、アクションを起こすことで、社会が少しずつ変わっていきます。」

2023年のジェンダーギャップ指数で、日本の順位は146か国中125位でした。特に政治と経済の分野で男女格差が大きいです。4月の統一地方選の市議選挙では、女性の当選者数が過去最多で、改選定数に占める割合も過去最高となりましたが、数値は22%と依然として低い状態です。女性議員を増やすためには、暫定措置としてクォータ制（選挙候補者の一定割合を女性に割り当てる等）の導入が必要なのではないでしょうか。政治の場に女性が関わることで、子育て支援、貧困、賃金格差等の分野で対応が進むと思われます。その結果、女性に限らず、男性にも性的マイノリティの方にも生きやすい社会となっていくでしょう。

同性婚、LGBT理解増進法案、選択的夫婦別姓制度についても、さらに議論を深めていかななくてはなりません。東京五輪・パラリンピック組織委員会会長の「女性の会議は時間がかかる」という発言に対し、大学生らが15万筆のオンライン署名を提出したことや、性暴力被害・セクハラ被害に抗議するMeToo運動・フラワーデモの広がり等を見ても、勇気を持って声を上げ、連帯する人が増えていることがわかります。そもそもメディアの役割は権力の監視です。私は記者として、権力者が隠したい事実を明るみに出します。市民一人ひとりがジェンダーにとらわれず、自分で考え、地方からも声を上げていきましょう。多様な声を社会や政治に届けていきましょう。（記念講演を要約したものです。）

新しいまちづくりを進めるために



## 映画上映

10月7-8日 視聴覚ホール  
(計6回上映)

「メイド・イン・  
バングラデシュ」

2019年 フランス・バングラデシュ・  
デンマーク・ポルトガル合作



縫製工場で働く女性の労働問題にフォーカスした「メイド・イン・バングラデシュ」を上映しました。ひとりの女性が立ち上がり労働環境を変えていく姿に多くの方が感銘を受けていました。

### 参加者の声

労働環境の悪さや低賃金の問題に立ち向かう主人公の姿に心を打たれました。リアルな労働の姿を知り、声を上げる大切さを教えてくれました。(20代・女性)

主人公が苦勞つづきでやっと労働組合の書類が通った時に、本当に強さを感じる表情をしていてすごく感動しました。いい映画に出会えてよかったです。(50代・男性)

## 展示・バザー

10月1-8日 市民ギャラリー ぶちトマト前  
10月7-8日 活動交流スペース 206学習室 エントランスホール 調理実習室 芝生広場

展示コーナーでは15団体が日々の活動や、男女平等について展示を行いました。多くの来場者が各展示の前で足を止められ、頷きながら熱心に見入っている方も。8日間での来場者数は500人を超え、大盛況に終わりました。



バザーでは15団体が日々の活動で得たものや、成果物を販売しました。新鮮な農産物や餅を使った小物など、多くの方が買われていました。調理実習室ではカレーや豚汁、赤飯の販売があり、こちらも2日間多くの方で賑わっていました。



### 実行委員会挨拶

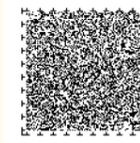
コロナ禍の制約なしで開催されると思った矢先の大水害で、田主丸町会場の市民企画を中止せざるを得ないフォーラム2023でした。しかし、実行委員会や市民団体のいつも変わらぬ熱心な行動力に支えられた女性週間にふさわしいジェンダー平等を考える内容でした。これから家庭で地域で職場で男女平等を考え行動し、「住みやすいまち久留米」をつくっていきましょう。

久留米女性週間記念事業実行委員会 実行委員長  
堀田 富子



久留米女性週間記念事業実行委員会とは

男女共同参画社会を目指す個人、各市民団体から選出された委員で形成される委員会であり、自ら各事業を企画・運営し、くるめフォーラムを実施します。くるめフォーラムは啓発事業であるとともに、男女共同参画を目指す団体と参加者の交流の場でもあります。



のびやかに豊かに生きる  
男女が共に